

令和4年11月15日

第88回 医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

第88回 医療薬学公開シンポジウム 実行委員長
富山大学附属病院 教授・薬剤部長 加藤 敦

令和4年11月13日(日)富山大学杉谷キャンパス講義実習棟(富山市)において、第88回医療薬学公開シンポジウム(主催:日本医療薬学会、共催:富山県病院薬剤師会、富山県薬剤師会、富山県)をWEB配信にて開催いたしました。製薬メーカーによる法令違反やサプライチェーンなど、医薬品供給不足の問題など、医薬品の供給不安やサプライチェーンの脆弱性の問題など、この数年、医薬品を取り巻く環境は大きな岐路に立たされています。今回、「ジェネリック医薬品・バイオシミラーを取り巻く環境と今後に期待すること」をテーマにシンポジウムを企画し、全国各地から371名にご参加いただきました。

教育講演では、富山大学学術研究部 薬学・和漢系 製剤設計学講座 客員教授 大貫義則先生に「医薬品の特性や品質を決定する処方設計の重要性」と題して、処方設計の難しさや添加剤による製剤の性能や品質への影響など医薬品開発スケジュールの中での製剤学の研究の重要性を整理して頂くとともにジェネリック医薬品開発における課題や製品に施される製剤工夫などについてご紹介いただきました。特別講演では、浜松医科大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 川上純一先生に「超スマート社会に向けた創薬イノベーションと持続可能な医療:ジェネリック医薬品・バイオシミラー使用促進への取り組み」と題して、今後予想される超スマート社会における医療環境や期待される薬剤師の職能などについてご紹介いただくとともにリアルワールドデータを活用した創薬イノベーション、医療DXやデータヘルス改革など医療分野や医薬品開発における最近の話題や政策動向についてもご講演いただきました。シンポジウム1では「SDGsな医薬品使用を目指して～供給不足問題～」をテーマに高岡市民病院の麻生美佐子先生より趣旨説明いただき、3名の先生に発表いただきました。富山市立富山市民病院の野澤寿吉先生より「病院薬剤部主導で立ち向かう医薬品供給問題」、富山労災病院の稲村勝志先生より「地域連携で取り組む医薬品不足とポリファーマシー(病院編)」、たんぽぽ薬局の畠山規明先生より「地域連携で取り組む医薬品不足とポリファーマシー(薬局編)」について発表をいただきました。シンポジウム2では「バイオシミラーの国民医療費削減効果と臨床現場での取り組み」をテーマに北陸中央病院の守内匡先生より趣旨説明いただき、3名の先生に発表いただきました。富山大学附属病院の橋本美紀恵先生より「大学病院におけるバイオシミラー利用促進への取り組み」、厚生連高岡病院の船本哲生先生より「当院におけるバイオシミラーへの切り替えの現状と課題」、あおば薬局くれば店の山原浩史先生より「薬局薬剤師とバイオシミラーとの関わり」についてご講演いただきました。シンポジウム1・2を通じ、富山県における地域特性を活かした薬業連携の取り組みや持続可能な医療と医薬品供給のための取り組みをご紹介しますと共に、バイオシミラーへの切り替えの現状と使用促進に向け今後取り組むべき課題について視聴者の皆様と情報共有をおこないました。シンポジウム終了後のアンケート結果では、87.6%の方が「満足」「やや満足」と回答いただいたことから、「薬都とやま」からジェネリック医薬品やバイオシミラーを取り巻く環境と今後、我々が取り組むべき課題や方向性など、有益な情報を発信できたと考えています。

最後に、本シンポジウム開催にあたり日本医療薬学会 学会事務局、富山県病院薬剤師会、富山県薬剤師会ならびに富山県、そしてご協力いただきました全ての方々へ心より感謝申し上げます。